

【にんげん部門・佳作賞】

人間らしさ

札幌大谷中学校 2年 鈴木 風輝

人間は誰しも完璧ではない。僕は今まで、何事でも完璧を目指してきた。しかし、この作文を考えている時にこんなことを思った。「人は不完全な部分があるからこそ、その人の良いところや悪いところが見えて、良いのではないか」と。

例えば、僕が今取り組んでいる野球では、三割打てれば良いバッターと言われ、十割打てるバッターなど存在しない。今、世界で大活躍している大谷翔平選手ですら、調子の上がり下がりや、チャンスで凡退することもある。あの大谷翔平選手ですら完璧ではないのだ。僕も試合で沢山エラーをした日や、全く打てなかつた日などが今までにあった。そのたびに「僕に野球は向いていないのかな」と思っていた。そんな時にいつも周りの仲間はこう言つてくれた。「誰でさえミスをする時はあるから、そんな時は俺達でカバーする」と。その言葉をかけられるたびに僕は前を向いてミスを恐れずにプレーすることができた。もし全ての人間が完璧だったら、誰も失敗せず、迷わず、誰ひとりとして悩むことはないだろう。そうなれば努力する理由も、励まし合う理由もなくなってしまう。それを「人間」と呼べるだろうか。人間は誰しも不完全な部分がある。だからこそお互いに支え合い、励まし合い前へ進むことができる。

これから先、僕は今まで以上に自分の不完全な部分が見えてくる。そんな時はそこを、マイナスに感じず、プラスに捉え自分のモチベーションにして少しづつ前へ歩んでいきたい。そして、他の人の不完全な部分が見えた時には、その部分を受け入れて、寄り添って支え合いたい。